

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：34434

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26503017

研究課題名(和文) 差別糾弾の政治学 歴史経験としての戦後部落解放運動についての比較思想的な研究

研究課題名(英文) Politics on denouncing activities against discrimination: A Comparative Cultural and Historical Study about Buraku Liberation Movement as the Historical Experiences After World War II in Japan

研究代表者

廣岡 浄進 (HIROOKA, Kiyonobu)

大阪観光大学・観光学部・准教授

研究者番号：30548350

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：戦後の差別糾弾闘争をめぐって、狭山差別裁判糾弾闘争、矢田教育闘争、八鹿闘争などについて関係者に聞きとりをおこない、関連する文献史料を収集した。同時に、部落解放をめぐる多様な模索にも留意し、教育や文化活動、あるいは生業のとりくみなどについても聞きとりを進めた。これらによって、輻輳している感のある同時代史研究の論点を整理した。

さらに、海外調査を通じて、インドにおけるダリト運動の歩みと現状が比較の材料となっただけでなく、日本および現地の南アジア研究者との交流の機会ともなった。アメリカでは部落出身移民の事例につきあたるなど、いずれも今後の研究につながる手がかりを得た。

研究成果の概要(英文)： This project aimed to survey for the denouncing claims against discrimination organized by the Buraku liberation movements in Japan after World War II based on the perspective of comparative cultural history. We realized interviews to the people involved in the cases of "Sayama", "Yata", "Youka" and the other affairs, and collected materials. At the same time, in order to clarify diverse experiences in emancipatory efforts for the Buraku, and had interviews from the point of views of education, culture, and jobs which have their own historical backgrounds.

In terms of the research in the abroad, through the investigations with Dalit movements in India and the USA, our research also disclosed the contemporary but singular socio-political issues with which each emancipatory act struggle. In addition to the achievements, we came to notice the case of immigrants in the USA from Buraku and its gravity in the study of modern Buraku history.

研究分野：近現代史、文化研究、部落問題論

キーワード：部落差別 ダリト(Dalit) サバルタン 人種主義 アイデンティティ 新左翼 日系アメリカ移民 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

部落問題は、新自由主義政策がすすめられるなかで、自己責任としての「同和利権」というねじれた言説によって、問題提起としての差別糾弾が無化され、存在そのものの不可視化による忘却が図られつつあるように見える。これには学術の責任も少なくなく、研究の不在、はなはだしくは問題の現存そのものへ否認が、部落問題の不可視化を黙認する政治を構成している。

研究の開始時点においては、師岡佑行の名著『戦後部落解放論争史』(全5巻、柘植書房、1985年完結)という先駆的な業績の後、空白をはさんで、近年になって、本研究の研究分担者である友常勉『戦後部落解放運動史 永続革命の行方』(河出書房新社、2012年)などの成果が問われるなど、部落史研究者の間では戦後史への関心が寄せられつつある。

他方で、文化史研究を中心に、戦後の社会運動をめくって、研究蓄積が進みつつあるが、両者の断絶が指摘されている。つまり同時代史研究に部落問題を位置づけるための、理論ないし実証研究による介入が求められる状況にあるといえる。

2. 研究の目的

本研究は、1960年代後半から70年代にかけての部落解放運動の差別糾弾闘争を同時代史研究の課題に据えることで、とりわけ部落青年として目覚めたサバルタン集団におけるアイデンティティの闘争として、つまり名乗りをそれ自体運動としてとらえて、部落解放運動を考察することができるだろうと考えた。これは戦後思想史、および社会運動史研究の一環であるが、それと同時に、問題を特殊日本の言説に閉じこめないために、比較思想史としての方法論を用いて、アメリカおよびインドにおける人権運動を参照することで、世界的なラディカリズムの共時性を探究した。

3. 研究の方法

本研究は研究代表者廣岡浄進と研究分担者友常勉との両名による共同研究の方法を取った。

国内では、狭山闘争、矢田闘争、八鹿闘争など、戦後部落解放運動における代表的な差別糾弾闘争について、関係者への聞きとりをおこなうことができた。また、関係者からの史料提供を受けるなど、文献収集を並行した。とりわけ、日本共産党からの部落解放同盟にたいする批判が激しくなる時期については、糾弾そのものが党派対立の問題として解釈されるおそれがあるため、それらの端緒における差別糾弾としての論理に注目することとした。

海外調査においては、現地の活動家や研究者の協力を得ながら、聞きとり調査を中心に、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)

や同大学データベース校図書館、全米日系人博物館あるいは現地書店などでの文献調査をおこなった。これにより、反転して日本での文献調査の課題も浮上してきたことで、これらの調査に着手した。また、2012年ロンドンオリンピック後のイーストロンドンの再開発と移民対策についてもワークショップ参加・報告と調査を行い、都市開発を通して社会的差別を解決しようとする事例の収集を行った。

他方、文化理論やマイノリティ研究の達成に学ぶため、関連する諸研究についても可能な限り入手と参照とを試みた。

4. 研究成果

研究課題として掲げた差別糾弾闘争については、成果の一端として、研究分担者の友常勉は「矢田教育差別事件 再考」(『歴史評論』801、2017年1月、論文)を、また研究代表者の廣岡浄進は「八鹿闘争再考のための覚書」(『部落解放研究』208、2018年3月、論文)を、学術雑誌や研究紀要に発表した。その余については文献一覧に譲る。これらによって論点が絞られてきたことをうけて、今後、さらに聞きとり調査や史料の収集分析を進め、書籍化による成果発表をめざしたい。

海外調査は、アメリカ西海岸カリフォルニア州で日系の人権活動家から生い立ちや黒人運動や労働運動などとの関係などについてききとりをおこなった。インドでは首都デリーや北インドのハリヤナ州でダリト運動の関係者から運動の歴史および現状と課題、最近深刻化している襲撃事件の現状、またカーストと皮革業との関係について聞いた。これら国内および海外での調査のききとり記録をまとめた簡易な報告書の作成を準備している。また、インド調査を準備する過程で南インド研究者の協力を得て、全国大学同和教育研究協議会の春季企画シンポジウム「南アジアの不可触民」を組織し(当日の司会は廣岡浄進、報告記録は『部落解放と大学教育』29、全国大学同和教育研究協議会、2016年所収)さらに雑誌『部落解放』2016年3月号に「廣岡浄進責任編集 特集 被差別カーストの苦悩と挑戦」を組むことができた。

なお、アメリカ調査を通じて、西海岸カリフォルニア州では日系人へのききとりなどから、日系移民集団の中の被差別部落出身者の存在を介した人権思想の越境に関わる手がかりを得た。このことをきっかけに、水平運動や、さらには日本国憲法草案の背景にかかわる越境的な人権思想史研究という課題が浮上し、当初計画にあった最終年度のシンポジウム企画をとりやめて、アメリカ調査を追加した。この予備調査によって、渡航先および出身地について候補をしばらくこみ、新たな共同研究が科研費に採択されたことを付記する。(被差別部落からのアメリカ移民に

関するトランスナショナルな歴史経験についての研究、基盤研究 C、課題番号 18K00115)

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 22 件)

Kiyonobu HIROOKA and Tsutomu TOMOTSUNE, "Buraku Immigrants in the American West" 『日本語・日本学研究』8, 2018, pp.155-164. 査読有
doi/10.15026/91792

友常勉「社会政策「社会病」 関一と福田徳三における生政治」『部落解放研究』208, 2018年、pp.151-177. 査読無

廣岡浄進「八鹿闘争再考のための覚書」『部落解放研究』208, 2018年、pp.192-204. 査読無

廣岡浄進「序章 問いのありか 近現代史と現状とに関する部落問題研究の方法について」『問いとしての部落問題研究 近現代日本の忌避・排除・包摂』世界人権問題研究センター、2018年3月、pp.1-23. 査読無

友常勉「茨城」東日本部落解放研究所編『東日本の部落史』1 関東編、2017年、pp.121-159. 査読有

廣岡浄進(責任編集)、中川加奈子、舟橋健太、篠田隆「特集 被差別カーストの苦悩と挑戦」『部落解放』第723号、2016年3月、12~51頁+グラビア8頁。(廣岡浄進「特集にあたって」同号 pp.12-19、査読無)

廣岡浄進「松阪市議員としての上田音市 総力戦体制と部落問題」『部落解放研究』第204号、部落解放・人権研究所、2016年3月、pp.113-134. 査読無

友常勉「矢田教育差別事件 再考」『歴史評論』801、2017年、pp.56-70. 査読有

廣岡浄進「映画『もののけ姫』と説経節の物語」イシバン評論編集部編『イシバン評論 Culture/Critique 別冊』国際日本学研究会、2016年3月、214~221頁。査読無

友常勉「同和教育の誕生 乾武俊と被差別部落の民俗文化研究」『神奈川大学心理・教育研究論集』39、2016年、pp.29-40. 査読無

友常勉「戦後北米の日系アメリカ人の経験」『東京外国語大学国際日本研究センター社会言語部門講演録』4、2015年、pp.28-37. 査読無

友常勉「狂気の輸出、沈黙の連帯 一九七五年六月、船本洲治の二通の「イシヨ」」『現代思想』第43巻第12号、2015年、pp.213-221. 査読無

友常勉「資本主義的複合体と空間支配 1」『ヒドラ 批評と運動』1、2015年、pp.98-114. 査読無

廣岡浄進「「ハシシタ」問題を検証する 部落の地名、差別、そしてアイデンティティについて」『佐賀部落解放研究所紀要』第32号、2015年3月、pp.2-39. 査読無

友常勉「部落解放運動の現在とこれから」『社会運動』418、2015年、pp.118-137. 査読無

友常勉「党と部落問題」『大西巨人 抒情と革命』河出書房新社、2015、pp.156-161. 査読無

友常勉「群馬県前橋市粕川町込皆戸地区の三番叟かしらおよび「赤城人形大一座」について」「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会編『「阿波木偶箱廻し」調査報告書』2015年、pp.137-141. 査読無

友常勉「日本が滅びたあとで」、岡和田晃・マークウィンチェスター編『アイヌ民族否定論に抗する』河出書房新社、2015、pp.322-334. 査読無

友常勉「新谷行『アイヌ民族抵抗史』を読むために」、新谷行『アイヌ民族抵抗史』河出書房新社、2015年、pp.304-309. 査読無

友常勉「第三の戦争を発明するために」、河出書房新社編集部編『戦争はどのように語られてきたか』河出書房新社、2015年、pp.237-247. 査読無

①友常勉「戦争国家革命 前夜」『Hapax』3、2015、pp.33-51. 査読無

②友常勉「大学・学生の債務化とステューデントファイケーション」『現代思想』第42巻第14号、2014、pp.143-151. 査読無

[学会発表](計 9 件)

廣岡浄進「研究機関等による古地図のインターネット公開の現況」(共催)全国部落史研究会公開講座、部落解放・人権研究所研究第一部門第24回公開講座、2018年2月

廣岡浄進「原子力発電所開発と被差別部落の近現代史 若狭湾沿岸地域の事例から」東アジア日本研究者協議会国際学術大会、2017年

Tomotsune, Tsutomu, "The Legacy of the Imperial State," London, Rio, Tokyo Olympics Symposium, 10 Jun 2017 (ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ)

友常勉(代表)、ジョン・ポーター、魯炳浩、廣岡浄進、「(共同パネル)東アジアにおける歴史・思想史研究の現在」東アジア日本研究者協議会 第1回国際学術大会、2016年12月01日、ソンド(松島)コンベンシア、大韓民国仁川市

廣岡浄進「「ハシタ」問題を検証する 部落の地名、差別、そしてアイデンティティについて」佐賀部落解放研究所総会記念講演、2014年7月4日、佐賀県唐津市、高齢者会館りふれ

友常勉「戦争の哲学、戦争の情動」国際基督教大学 平和研究所、2014年11月05日、国際基督教大学

友常勉「感染と共振 寄せ場と東アジア反日武装戦線」『社会思想史学会、セッションD「寄せ場の思想・再考 船本洲治・釜共闘・現闘委』』2014年10月25日、明治大学

Tsutomu TOMOTSUNE "Minorities, Labor Market and Rural Communities in Japan" アジア学会シンガポール大会 Panel: Rethinking Heritage: Minorities, the Nation and Asia, 2014年07月19日、シンガポール国立大学

Tsutomu TOMOTSUNE "Domination with Discriminatory Integration: Multilayered Subcontracting System and Buraku's Strategy" FINDAS International Workshop 'Untouchability' in India and Japan: Labour and Space, FINDAS (人間文化研究機構(NIHU)プログラム「現代インド地域研究」東京外国語大学拠点現代インド研究センター)主催、於東京外国語大学、2014年5月31日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
(コメント)

Kiyonobu HIROOKA "Comments" FINDAS International Workshop 'Untouchability' in India and Japan: Labour and Space, FINDAS (人間文化研究機構(NIHU)プログラム「現代インド地域研究」東京外国語大学拠点現代インド研究センター)主催、於東京外国語大学、2014年5月31日

(書評)

廣岡浄進「書評 竹沢泰子ほか編『人種神話を解体する』全三巻(東京大学出版会、二〇一六年)」『部落史研究』2、2017年、pp.222-235.

廣岡浄進「(書評)内田龍史編著『部落問題と向きあう若者たち』解放出版社」『奈良人権部落解放研究所紀要』第33号、一般財団法人奈良人権部落解放研究所、2015年3月、pp.65-76.

友常勉「book review 安丸良夫・菅孝行共著『近代日本の国家権力と天皇制』」『変革のアソシエ』17、2014年、pp.91-93.

(短文)

廣岡浄進「部落差別解消推進法」『GLOBE』第90号、世界人権問題研究センター、2017年7月、10~11頁。

廣岡浄進「猫皮なめし業の窮状と三味線の将来」『GLOBE』第81号、世界人権問題研究センター、2015年4月、10~11頁。

(一般講演)

廣岡浄進「部落問題に会う 部落差別解消推進法の成立を受けて」人権研修講演会、2017年03月14日、旧泉佐野市立下瓦屋人権文化センター

廣岡浄進「報道と部落差別 被差別部落の地名を出すことをどう考えるのか」草

津市企業同和教育推進協議会オーナー研修
会、2015年2月5日、滋賀県草津市、草津
市立市民交流プラザ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

廣岡浄進（大阪観光大学・観光学部・准教
授）

研究者番号：30548350

(2) 研究分担者

友常勉（東京外国語大学・大学院国際日本
学研究院・教授）

研究者番号：20513261

(3) 連携研究者

なし

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

なし

()